

私は、日本共産党を代表して、発議第6号核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加を求める意見書について賛成の立場で討論します。

史上初めて核兵器を違法化した核兵器禁止条約が発効してから1年が経過しました。この1年間に同条約を批准した国は7か国増えて59か国となり、署名国も86か国と国連加盟国の半数に迫ろうとしています。これは被爆者をはじめとした市民社会と、世界の多数の国々の政府が共同で勝ち取った歴史的成果です。米国の核の傘の下にあるドイツやノルウェーが条約締約国会議へのオブザーバー参加を決めています。

一方、核兵器廃絶に向けた国際的な大きなうねりの中で、同条約に背を向けているのが日本政府です。世論調査でも核兵器禁止条約に日本が参加するべきだと答えた人が71パーセント、締約国会議にオブザーバーとして出席するべきだとした人は85パーセントにも上っています。唯一の戦争被爆国として核兵器の非人道性を国際社会に訴え、核兵器禁止条約に参加することは日本政府に課せられた責務です。

政府においては、直ちに核兵器禁止条約に参加し、核兵器のない世界の実現に向けて国際的なイニシアチブを発揮することが必要です。

以上のことから 核兵器禁止条約締約国会議へのオブザーバー参加を求める意見書(案)について賛成討論とします。